

キーボード入力能力の評価と向上策の効果について

新潟医療福祉大学 教養教育 情報
 ○寺島 和浩、張 国珍、小野寺良二

1 目的

新潟医療福祉大学においても、レポートや卒業論文などを作成するにあたり、パソコンのワープロを用いることが必要不可欠となっている。その際、キーボード入力能力が十分高ければ、時間の短縮にもつながり、入力内容に集中できるので、効率の良く作業が出来る。キーボード入力能力の向上は本学においては、以前より課題とされており、いくつかの方法を試みてきたが、本研究では、キーボード入力能力の向上を目的として、2分間で評価できるキーボード入力練習ソフトを用いて、毎回の授業開始直後の短い時間で行う向上策について評価検討を行ったので、報告する。

2 対象

情報処理 I を受講している1学年全学生(内有効回答数526)を対象とした。

3 方法

(1) キーボード入力練習ソフトについて

タイピング練習フリーソフト(ゼロタイ:開発元 HIGATECH)のタイムトライアルモードを使用した。2分間、問題文が出題され、その文字列をキーボード入力する。最後に、総タイプ数、ミスタイプ数、ヒット率、平均正確タイプ速度、スコアが表示される。このソフトは、様々なローマ字入力に対応しており、出題されたローマ字以外で入力した場合でも、正しい場合は、正解としてカウントすることができる。出題文についても、自作可能であるため、「理学」「作業」など新潟医療福祉大に関するものなども含めて用意した。これを授業開始直後に行うように指導し、最大9回の授業で行った。

(2) 結果の集計方法について

各学生は、毎回のソフト終了時に表示される、総タイプ数、ミスタイプ数、ヒット率、平均正確タイプ速度を記録し、エクセルファイルに入力する。そのファイルを授業最終日に回収し、初回と最終回のデータを集計した。

4 結果

表1に学科ごとの、初日と最終日の平均キーボード入力速度を示す。いずれの学科も、増加量は異なるが、初日と比較して最終日の入力速度は速くなっている。図1に全学の初回時と最終回時のキーボード入力速度のヒストグラムを示す。中央値よりも低いところに度数が多く分布しており、入力速度の速い方に裾野の広い分布となっている。図2に2002年度と同様な調査を行ったときのヒストグラムを今回のものと重ねて表示した。本年度の結果は全体の入力速度が高いほうにシフトしていることが分かる。

5 考察

キーボード入力能力の向上を目的に、情報処理の授業の開始直後の短い時間で、タイピング練習ソフトで練習を行った。練習時間は1回2分程度で短時間であるが、回を重ねることで、入力速度が向上することが確認された。

近年の若年層において、携帯電話の普及で電子メールは携帯電話を利用する機会が多くなり、反面、パーソナルコンピュータによる利用の割合が減少しているといわれている。そのことで、パーソナルコンピュータのキーボード入力を苦手とする学生も少なからずいるようであるが、2002年度の時との比較においては、評価に用いたソフトが異なるため単純に比較は出来ないが、本年度の学生の方が全体的にキーボード入力能力が高くなっている傾向があることが分かった。

6 文献

1) 寺島和浩:キーボード入力能力と大学進学以前の情報教育の関連性について、新潟医療福祉学会誌、Vol3, 1, pp. 95-101, 2003.

表1 学科ごとのキーボード入力速度 (単位:毎分)

学科	初日 平均値	最終日 平均値	増減
A学科	113.1	146.6	33.5
B学科	114.7	148.4	33.7
C学科	126.1	149.4	23.3
D学科	127.4	135.6	8.1
E学科	126.2	159.2	33.0
F学科	107.2	135.7	28.5
G学科	122.2	164.3	42.0
H学科	120.9	142.7	21.8

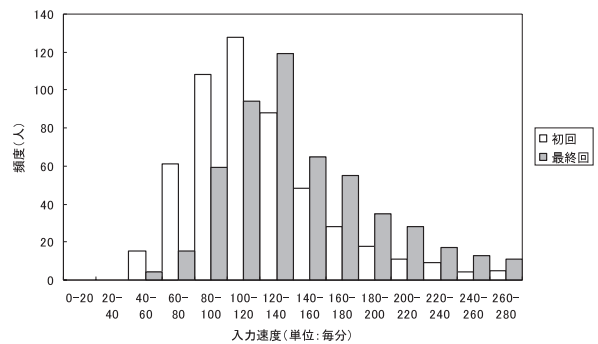


図1 初回と最終回の入力速度の分布

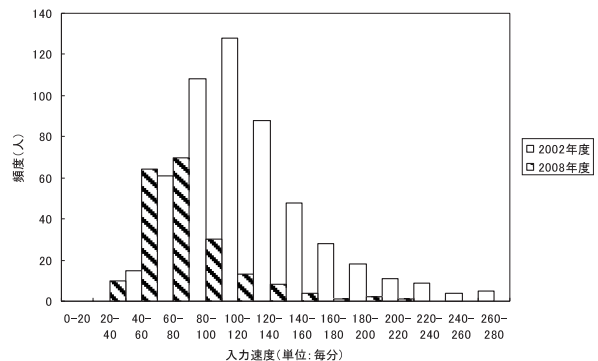


図2 2002年度と2008年度の入力速度の分布